

月刊 グラフィックサービス

No.894 5 2026



株式会社TOP印刷
代表取締役
小幡 利之 さん

大阪大会直前！特別企画
岡本会長、2期4年を振り返る
広報委員会インタビュー

■ 巻頭言
全国の皆さまへ
——(株)TOP印刷 代表取締役 小幡 利之

■ 寄稿
Girls Who Print Japan
印刷女子 活動のご紹介

■ 特別企画
SPACE-21 全国キャラバンより
株式会社アドヴォネクストの取り組み
印刷会社が「プリン」を売ってみた
——(株)東海林印刷 代表取締役社長 東海林正豊

■ 連載
SPACE-21 広報部
新旧代表幹事挨拶



全国の皆さまへ

第68回ジャグラ文化典大阪大会運営委員長
(株)TOP印刷 代表取締役

小幡 利之



CONTENTS

■ 巻頭言

1 全国の皆さまへ

——第68回ジャグラ文化典大阪大会運営委員長
(株)TOP印刷 代表取締役 小幡 利之

■ 大阪大会直前！特別企画

2 岡本会長、2期4年を振り返る 広報委員会インタビュー

■ 特別企画

SPACE-21全国キャラバンより

17 株式会社アドヴォネクストの取り組み

26 印刷会社が「プリン」を売ってみた

——(株)東海林印刷 代表取締役社長 東海林正豊

■ 寄稿

24 Girls Who Print Japan 印刷女子 活動のご紹介

■ 連載 SPACE-21 広報部

6 新旧代表幹事挨拶

■ NEWSとお知らせ

12 第61年度・第6回理事会 議事録

14 2026年 理事・監事選出候補者リスト

22 JIPDEC『企業IT活用動向調査2026』の結果を公表

28 グリーン購入法関連情報

■ NEWSとお知らせ

8 都道府県による支援拠点に「生産性向上支援センター」を開設
中東情勢による印刷インキの現況について

19 業界の動き

ジャグラ70周年誌編集委員会 ジャグラ70周年記念誌を発刊

JPA 後援会 AIセミナー開く

JPA 第49回入学式・入校式を開催

JP2026 ジャグラ岡本会長ら4団体代表が登場予定

21 雑学コラム④

29 事務局日誌と今後の予定

9 ホリゾン・ジャパン(株)

10 富士フィルムグラフィックソリューションズ(株)

11 (株)ショーワ

15 (株)モトヤ

16 東京リスマチック(株)

21 (株)研美社

表4 リョービ MHI グラフィックテクノロジー(株)

月刊グラフィックサービス 発行趣意

月刊『グラフィックサービス』は、一般社団法人日本グラフィックサービス工業会会員、関係諸団体およびすべてのステークホルダーの皆さまに、自社の質的向上に役立ち、知恵と勇気を分かち合うことを目指し発行するものです。

本会の存在意義である人間交流スペースを構築し、社会の多様な要請にタイムリーに対応しつつ、共通の経営課題を持つ会員をネットワーク化し、その交流を積極的に支援するとともに小さいことでも有利となる経営施策も発信する情報ターミナルとなることを理想とします。

またその情報発信手段は誌面にとどまらず、環境に応じて多様な発信方法を検討、遂行することを責務とします。

【概要】

発行回数 月1回/年間12回

配布方法 ・全会員へ直接郵送

購読料 ジャグラ会員は無償(会費に含む)

・ジャグラホームページからのダウンロード

・希望企業、団体への有償配布

本誌へのご意見・ご要望・記事提供は下記宛お寄せください

Eメール edit@jagra.or.jp 電話03-3667-2271 ファクス03-3661-9006

お手紙 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 〒103-0001 (一社)日本グラフィックサービス工業会 宛

2026年度 第68回ジャグラ文化典大阪大会 運営委員長を仰せつかっております小幡です。

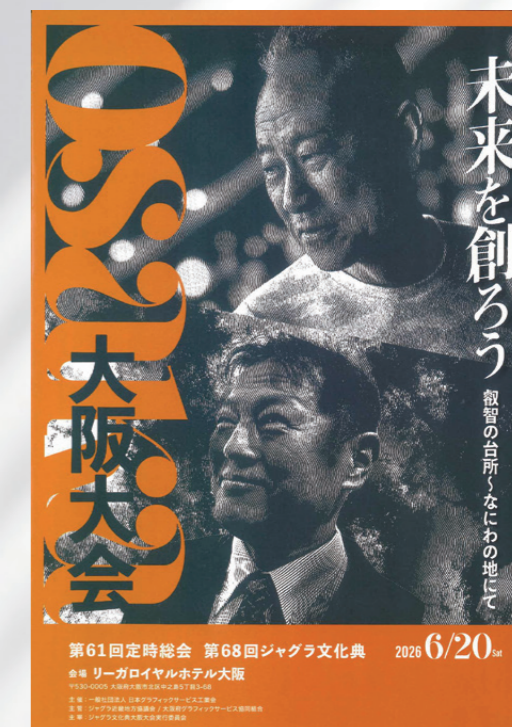
全国の仲間が一堂に会する本大会を、大阪の地で開催できますこと、運営委員長として大変光栄に存じます。日頃から業界を支えてくださっている賛助会員の皆さまをはじめ、関係各位のご尽力に心より感謝申し上げます。

さて、私たち印刷業界を取り巻く環境は、デジタル化の進展や市場構造の変化により、年々厳しさを増しております。従来の延長線上では立ち行かない局面も多く、将来に対する不安を抱えておられる方も少なくないでしょう。しかしその一方で、独自の強みを磨き、新たな価値を創出しながら着実に成長を遂げている会社が存在するのも事実です。そこには必ず、変化を恐れず挑戦し続ける姿勢と、顧客の本質的な課題に向き合う力があります。

本大会では、「これから私たちは何をすべきか」「どのようにして生き残り、さらにはどう発展していくのか」という問いに対し、参加者一人ひとりがヒントを持ち帰ることのできる場になりたいと考えております。成功事例や先進的な取り組みの共有はもちろん、同業者同士が本音で語り合い、互いに刺激し合うことで、新たな気づきや連携の可能性が生まれることを期待しております。

また、大阪開催ということで、「大阪らしさ」も大切にしたいと思っております。人と人の距離が近く、温かく、そして活気に満ちたこの街の魅力を感じていただきながら、単なる学びの場にとどまらず、心に残る体験として記憶に刻んでいただける大会を目指します。参加された皆さまが、それぞれに「大阪の思い出」とともに、新たな決意や活力を持ち帰っていただけることが私たちの願いです。

さらに、次世代へと業界をつないでいく視点も欠かせません。人材の確保・育成、技術の継承、そして新



たなビジネスモデルの構築など、取り組むべき課題は多岐にわたります。本大会が、未来を担う若い世代にとっても希望となり、「この業界で挑戦したい」と思えるきっかけとなることを強く願っております。

本大会の開催にあたり、多大なるご支援を賜りました賛助会員の皆さま、組合員の皆さまには、あらためて深く御礼申し上げます。皆さまのご支援なくして、本大会の成功は成し得ません。業界全体が厳しい状況にある今だからこそ、こうした支え合いの輪がよりいっそう重要であると実感しております。

結びに、本大会が参加されるすべての皆さまにとって実り多きものとなり、それぞれの未来への一步を後押しする機会となることを心より祈念申し上げます。そして、本大会を契機に、印刷業界がさらなる進化と発展を遂げ、次世代へと力強くつながっていくことを願って、私のご挨拶とさせていただきます。

大阪大会直前！特別企画

岡本会長、2期4年を振り返る

広報委員会インタビュー



2022年6月、第57回定時総会で中村耀会長（現顧問）のバトンを受け取り、第22代会長に就任した、愛知県支部・岡本泰氏（株式会社クイックス）。『絆をカタチに』をスローガンに、ジャグラコンパクトDX事業をスタートさせ、既存委員会でも将来を見据えたジャグラ本部体制の再構築に着手するなど、印刷産業全体が斜陽と言われる中で、精力的に活動し、中小印刷業の活性化を図ってきた。2期目に突入すると、長年の業界の課題である価格競争に対し、全日本印刷工業組合連合会など4団体と協調し、『価格競争から価値競争へ』をスローガンにかかげ、印刷の価値を再認識させるとともに、一方で“グラフィックサービス業への転換”を強力に会員へ呼び掛けてきた。2期4年をかけ、全国の支部を周って会員の声に耳を傾け、次世代のジャグラを担うSPACE-21を全力で応援してきた岡本会長に、2期4年の活動を振り返ってもらった。

東海林：まずは率直に、2期4年を振り返って、今のお気持ちを聞かせください。

岡本会長：大変なこともあったけど、皆に申し訳ないと思うくらい、本当に楽しかったな。会長という立場だけでは分からない、各地の現実や事実を、全国のジャグリストから直接教えてもらうことができたからね。経営者としても一社会人としても大変勉強になったよ。

会員さんの多くが、「先輩からお世話になった」「同世代に助けられた、勉強させてもらった」と口をそろえて言うのを聞くと、いかにジャグラが好きか身に染みた。受けた恩を返す、「次の世代に繋いでいかなければならない」という“恩送り”の精神がジャグラの組織の絆や連帯感を生んでいると強く感じる事ができた4年間だった。

GCJ、全製工連などの団体と連携して地域を支援することが結果として日本の産業や日本経済全体を盛り上げることに繋がると全国を回ってひしひしと感じたな。

東海林：そうは言っても印刷業界の縮小傾向は変わらず今後も進むと見ています。一方でジャグラや全印工連、GCJ、全製工連、そして機資材メーカー団体、製紙連合会、紙卸商組合など印刷産業に係る組合、団体が多数存在します。特に地方では多くの印刷関連業が重複して複数の組合、団体に加入しています。そこで各組合、団体が一致団結して業界再興に取り組むべきと考えますがいかがでしょうか。

岡本会長：ジャグラとしては今後、「印刷の業界団体」ではなく、印刷もできる組織として別の方向を模索すべきだと思っている。本格的なものづくり、製造主体としての印刷業も大切だけど、ジャグラはグラフィックサービスの名の通り、デザインやプログラム、動画やドローンなどの周辺業務や、イラスト、漫画をはじめとする「コンテンツビジネス」のノウハウを重視する企業の集まりになった方がいいんじゃないかな。

ジャグラ会員の平均従業員数って5人から10人だから、そうした中小企業は今後、装置産業としてやっていくのが難しいはず。だからジャグラコンパクトDXのような施策を4年間やってきたんだよね。反対にある程度規模もあって、設備投資していけるなら、他団体の施策の方が当てはまるものもあると思う。

今後は、事業で重複しているところがあれば、団体同士で乗り入れして一緒にやっていくべきだと思うけど、衰退産業によくある「団体同士が一つにまとまる（合併）」という現象で言うなら、ジャグラが他団体と一つになること

は未来永劫ありえない。

むしろ今は日本印刷産業連合会という印刷産業の連合会に所属しているけど、加盟している意味も薄れている。今後どうしていくかも検討していかなければならないと思う。

東海林：先ほど少し話に出ましたジャグラコンパクトDX事業について、事業を支える「4つの柱」について今年の新年号の新春対談で詳しくお聞きしましたが、その中で総じて「80点」と評価されていました。残りの20点を補うには何が必要だとお考えですか。

岡本会長：気持ち的には100点どころか、120点の出来栄えだったけど、ジャグラの事業として続けていかなければならないから、80点なんだよ。各委員会の委員長やメンバーが頑張ってくれたおかげで想定以上の成果を得ることができたのは間違いないんだけど、ボランティア組織で最も重要なのは「継続させる仕組み」を作ることだということを感じておいて欲しい。これをルーティンに落とし込んでからはじめて完成と言える。

コンパクトDXの根底にあるのは、「新しい技術をどう経営や従業員の幸せにつなげるか」という広くて開けたアンテナだ。ガリ版、電算写植、DTP、カラー化など、常に技術革新に前向きに取り組んできたのが「ジャグラ魂」だからね。

今回はDXだったけど、次は生成AIやMA（マーケティングオートメーション）など、また新しい技術がくるかもしれない。技術革新に対して臨機応変に委員会を組織し、検証して会員にモデルケースとして届ける、というルーティンを定着させた時、本当の意味で100点を付けたいと思っている。





東海林：本部事業だけでなく、ジャグラのさらなる発展には地協の活性化と青年部であるSPACE-21メンバーの活躍が必要だと考えます。それぞれに対するお考えをお聞かせください。

岡本会長：支部単位では気付けないこと、知ることができない情報を、地協の場で知ることができるし、同じ地域外の状況や企業を知ること、自社を客観視できる。地協活動の支援金を活用して、他の地域から講師を呼ぶなど、ジャグラの豊富なコンテンツを有効活用してもらいたいね。支部単位の活動も大切だけど、どうしてもメンバーが固定しがちで、お互いによく知っているのを酒を酌み交わすだけの集まりになりやすい。飲みにケーションも大事だけど、そうすると新しい会社や若い人、後継者が入りにくくなるので注意しなきゃいけない。その点、地協単位の活動は普段会っている人以外とも交流できるので、有益なビジネス情報を持ち帰りやすいし、組織循環としての世代交代を促すにはうってつけだと思う。

SPACE-21に関しては、チャレンジ精神があって、皆のびのびと活動しているのを見て、非常に心強かった。プロレス企画など一見遊びに見える内容でも、企画から実施、振り返りを一度に味わえるいい経験になったでしょ？

俺から言わせてもらえば若手は失敗を前提にして構わないんだよ。それこそケツは本部や先輩が拭くので、どんどん好きなことをやって欲しい。皆で連帯感をもって何かをやるのが一番大切だということを感じてもらいたい。そして、次のジャグラをけん引していってくれればうれしいね。4月に結成したSPACE-21 四国のように新しい青年部を立ち上げる動きは非常に良い事例だった。

東海林：最後に、もし“もう一度”と言われたらどうでしょうか。

岡本会長：(笑) 会長職に限らず、ジャグラの役職は「やりたい」でやるもんじゃない。皆がボランティアで時間を使って組織する団体の役職というのは、「やりたい・やり

たくない」というエゴで決めるのは本当に危険だ。周りに支えてくれる人がいて、「自分たちが支えるからやってもらいたい」と言われて初めて成り立つものだと思う。だから“もう一度”と言われたら「ノー」はない。

ただ、組織を長続きさせるためには、任期をしっかりと決めて、時期が来たら次にバトンを託すことが必須だと思う。自社の後継者育成と全く同じだ。

正直、大変でもあったけど、やりがいのある仕事だった。支えてくれた周りの人たちに感謝してもしきれない。もし万が一、再び条件が揃って「やってもらいたい」と言われたら、しっかりと受ける覚悟はあるよ。

<おまけ>

東海林：全国を回って美味しかったものベスト3を教えてください！

岡本会長：3つになんて絞れないよ(笑) 蕎麦なら島根の出雲そばが一番美味しかったな。うどんは、秋田の稲庭うどん、香川の山越うどん、そして最近一人で行って驚いた博多のうどん！でもやっぱり北海道はなんでも美味しいよね！生産性向上委員会や印刷革新会で世話になった岸ちゃん(北海道支部・正文舎)に、色々連れて行ってもらったお店は最高だったな。名前は忘れたけど(笑)。松山では白身魚だけでフルコースを味わえるお寿司屋があったんだよ。金沢の香箱ガニは最強だね。富山湾のホテルイカ、白エビ、ブリ、大分の関アジ、関サバ、秋田の比内地鶏のスープや親子丼は最高だったな。秋田はさらに天然岩ガキやじゅんさいも絶品だった！手前味噌だけど、名古屋コーチンも味が濃くて、刺身も美味しいですよ。強いて挙げるなら特にわくわくしたのは「札幌」「秋田」「松山」でした！

岡本会長を陰で支え、全国各地に同行されたクイックス国田佳代さん(通称カヨちゃん)にウラ話をお聞きしました！

岡本は会長任期期間の4年間で沢山の方々と交流させていただきました。岡本から「未訪問の支部を訪ねたい」と指示を受けた時には驚きましたが、田中専務理事も巻き込んで支部長の皆様と連絡を取り、受け入れていただいてなんとか達成できそうです。来週最後の訪問地奈良県支部へお邪魔させていただきます。(執筆4月16日)突然の支部訪問依頼を受け入れていただいた支部長の皆様には感謝の気持ちで一杯です。改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

岡本といえば“ワイン”のイメージがあるかと思いますが、支部訪問でお邪魔する時には意図されていたか？日本食の設定が多かったように思います。私が同行させていただいたのはほんの数支部ですが、全体を通しておそらくワイン爆弾でご迷惑をおかけした支部はなかったのではないかと考えています。(うちは！という支部の方見えたらすみません)珍しい物ではなんといっても富山県支部訪問時のサソリの素揚げ。岡本おいしくいただいておりました！同行先で美味しかったものは？といえば、やっぱり北海道は美味しいものがいっぱいでした。

お寿司はもちろんジギスカン。パンも美味しかったです。仙台は駅中のお寿司屋さんに二日続けて行きました。富山の白エビの天ぷらや愛媛のお魚も美味しかったです。高知の幻のわらび餅、福岡のやかんうどんはその名の通りあの“やかん”にうどんが入っていて見た目にびっくりしました。福岡といえば支部訪問時に県営名古屋空港で屈強な中日ドラゴンズ選手団に囲まれたようです。

とにかく人と交流すること、若手の方への良く言えば激励が大好きで、こちらはおそらく沢山の方が経験されていると思います。無償の愛あってこそということでご理解いただければ幸いです。その他困っている事は、皆様とお話しているとすぐにまた会いたくなってその場で次回会う約束をしてくるのでスケジュールはいつもいっぱい来客のアポイントが入りません(;v:)

そんな岡本ですが、会社にお土産を買ってきてくれます。毎回楽しみにしています。おススメのお土産ありましたら、岡本へご教示ください。よろしくお願いいたします。



SPACE-21 広報部

みなさまありがとうございますごさの変わりました!

SPACE-21 直前代表幹事 小澤 孝一郎
(株式会社オズプリンティング)



2024年4月に代表幹事として承認されてから2年が経ち、いよいよ松谷新代表に引き継ぎました。

ホッとしているとともに、就任時に目指した形を実現できなかった無力感も感じています。

もっと学びを提供できなかつたらどうか、もっと心熱くなれるような活動ができたのではないかと、思っています。活動を通じて、全国の青年部は規模の縮小により活動が出来ていない、という状況を目の当たりにしました。何を隠そう、私の所属する山梨AUCも全くと言っていいほど活動出来ていません。

私がAUCに入会した17年前は、15人前後で毎月1度集まり、交流会をしていました。先輩方は支部へ時には組織への不満を漏らしながらも、活力のある会をしていました。総会の後や

結果として、目指したことができたとは、到底感じられません。成し遂げられなかった想いは、松谷新代表とともに追い求めていきたいと思っています。



深く知り、広く結び、未来を創る。

SPACE-21 代表幹事 松谷 勝広
(株式会社松谷メールサービス)



日頃よりSPACE-21および各地青年会の活動に多大なご理解と温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。この度、SPACE-21の代表幹事を拝命いたしました、株式会社松谷メールサービス、松谷と申します。全国の皆様に向けて、今期にかけ私の想いと決意をお伝えする機会をいただき、誠にありがとうございます。

今日、SPACE-21が活発に活動できることは、次世代へ連綿とバトンを繋いでくださった業界諸先輩方のおかげです。そして我々SPACE-21が「どうあるべきか」という組織の真価を探求し、力強く躍動するための地盤を築いてくださった小澤直前代表の志と熱量は、私自身がしっかりと引き継ぎ、次なる前進の原動力として行きます。

JaGraには、印刷業をはじめ多種多様な強みを持つ様々な業種の企業が集まっています。日々の自社事業だけでは得られない「出会い」や、業種の垣根を越えて経営課題を

語り合った深い「学び」の数々は、私自身や自社にとってかけがえのない財産となっています。この場をお借りして、これまで我々を温かく見守り、導いてくださったすべての皆様に深く感謝申し上げます。

さて、今期SPACE-21では、新たな活動スローガンとして「深く知り、広く結び、未来を創る」を掲げました。

私たちを取り巻く事業環境や技術は日々目まぐるしく変化し、グラフィックサービス業への転換が求められる今こそ、自社や業界の現状、そして最新のトレンドを「深く知る」ことが不可欠です。そして、その得られた知見を持ち寄り、全国の仲間と「広く結び」つくこと。互いの異なる背景や特化した強みを掛け合わせることで、一つの企業、一つの地域では成し得なかった新たな価値や活動のカタチ、すなわち「0から1」となる「未来を創る」ことができると確信しています。

～代表幹事退任にあたって～

大会の後はコンパニオンを手配し、どんちゃん騒ぎするのが当たり前でした。時代の変化もあると思いますが、そんなヤンチャな青年会が5年前からほとんど活動が無くなり、親会に支援をしてもらいながらジャグラー山梨の例会に参加させてもらっている状況です。

このような背景がある中でSPACE-21としての意義は何なのか、を問い続けてきました。そして、全国の若手印刷人に、学びや楽しさを知る機会を提供することが、SPACE-21の役割だと考えてきました。

地元の青年会が活動していなくとも、SPACE-21に行けば、アクティブに活動できる!という機会が提供出来たらいいなと思っていました。

結果として、目指したことができたとは、到底感じられません。成し遂げられなかった想いは、松谷新代表とともに追い求めていきたいと思っています。

結びに、この2年間、JaGraの理事として活動させていただき、多くの方々に支えていただきました。心より感謝申し上げます。この2年間で色々な知り合いも増え、JaGraの楽しさを知ることが出来ました。

JaGraを一言で表すとすれば「面倒くさくない組織」とも言えますか。

それは決して適当ということではなく、しっかりと責任を持ちながら相手の事を許容する文化です。そんな組織の中で私自身も成長をさせていただきました。

この経験を活かし、自社の成長につなげて参りたい、そしてSPACE-21、JaGraに恩返しをすることを今後の目標とさせていただきます。

全国の仲間と共に歩み未来を切り拓くSPACE-21へ

「印刷」に限定すれば、業界のシュリンクはまだまだ止まりません。そんな中で現在の全国を見渡せば、単独での青年会活動が難しくなっている地域も確かに少なくありません。しかし、そうした地域にも、熱い想いを秘めた仲間たちがいます。

今期のSPACE-21は、各地の課題に耳を傾けながら、私達自身が各地青年会に寄り添い、一緒になって活性化させて行くことを目指します。また、我々が先進技術へのチャレンジや全国的な交流を通じて得た情報、気づき、そして熱量を、全国に向けて積極的に「横展開」していきます。あらゆる地域に全国ネットワークの輪を広げ、私たちが全国を横断する架け橋となり、各地青年会活動を全力で応援し、皆で手を取り合って前進できる環境を作っていく決意です。

皆様にとって、我々SPACE-21や各地青年会がどのような存在であるべきでしょうか。私は、青年会とは「失敗を恐れずに、先進的・実験的な取り組みに果敢に挑戦できる場」と考えています。

私たちが各地の仲間と共に汗をかき、時には壁にぶつかりながらも新しい価値を模索していく。その過程での経験や成長そのものが、次世代のグラフィックサービス業をけ

ん引する力となり、やがてはJaGra全体の未来を創り上げていくことにつながると信じています。

会社、或いは業種は異なっても、私たちは新たな価値を共に創り出していける同志です。出会いや学びに感謝しながら、SPACE-21は常に各地に寄り添い、皆様と一緒に活動して行けたらと思います。

代表幹事という大役にあたり、その重責に身の引き締まる思いですが、全国の仲間たちと共に、楽しみながらも、真剣に走り抜く所存です。JaGra本部、諸先輩の皆様におかれましては、時に厳しく、時に温かく、これまでと変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

P.S. 今回真面目に書きすぎてしまったので、また機会があれば次回よりややふざけます。



都道府県のよろず支援拠点に「生産性向上支援センター」を開設 伴走型で人手不足解消を支援

4月1日、全国のよろず支援拠点内に「生産性向上支援センター」が開設されました。よろず支援拠点は、各都道府県に設置された、中小企業・小規模事業者等が抱える売上拡大や経営改善等の様々な経営課題に対して、ワンストップで対応する組織です。地域の支援機関と連携しながら、その解決を支援し、地域経済の活性化を図っています。

今回開設した生産性向上支援センターは、中小企業・小規模事業者等の生産性向上（特に労働投入量の効率化）に向けて、複数回（計10回程度を想定）現場訪問型の徹底した伴走支援を行います。

例えば、「残業が減らず、人が定着しない」、「本当は見直したいが、手作業が当たり前になっている」、「忙しさに追われ、改善に手が付けられない」等のお悩みを抱える中小企業・小規模事業者等に対して、寄り添います。

生産性向上に関する知識・経験豊富な生産性向上支援サポーター等が、中小企業・小規模事業者等の現場の状況に応じた最適な次のステップを一緒に考えます。

支援内容の一例として、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）など作業環境の整備、ムリムラムダの削減など職場改善、作業プロセス改善、デジタル化、自動化、IoT化、AI活用などがあります。

また、同センターの支援を受け、「生産性向上取組計画」と呼ばれる計画を策定することで、2026年夏頃より、省力化投資補助金（一般型）の採択審査において加点措置を

2026年4月開設

中小企業等の生産性向上を徹底的に伴走！
国がよろず支援拠点内で実施する無料の支援です。

中小企業・小規模事業者の
お悩みへ
寄り添った
支援センター

こんな悩みを
ひとりで抱えて
いませんか？

- 「残業が減らず、人が定着しない」
- 「本当は見直したいが、手作業が当たり前になっている」
- 「忙しさに追われ、改善に手が付けられない」

生産性向上支援センターは、中小企業等の皆さまに寄り添い、「今の現場に合った」次のステップを一緒に考えます。

| | | |
|---|---|---|
| ポイント1 生産性向上の「プロ」が支援 生産性向上に関する知識・経験豊富な「プロ」が「今の現場に合った」次のステップと一緒に考えます。 | ポイント2 無料・複数回の現場訪問 「相談に行く時間がない」、そんな場合でも、ご安心ください。サポーターが何度も、無料で、現場へ伺います。 | ポイント3 補助金活用にもメリット センターの支援を受けることで、省力化投資補助金（一般型）の採択審査において加点が受けられます。（予定） |
|---|---|---|

質問・相談・予約は、お近くの「よろず支援拠点 生産性向上支援センター」まで、お気軽にお問い合わせください。

お近くの拠点を調べる <https://yorozu.smrj.go.jp/base/>

センターで働きたい方はこちらサポーター公募情報 <https://yorozu.smrj.go.jp/recruit/>

※「生産性向上支援センター」は、国の補助金を活用しています。
※省力化投資補助金（一般型）の採択審査における加点措置については、2026年度以降の公募から実施予定です。
※本センターは、今年度限りで「よろず支援拠点」の認定を受け、国の認定を受けなくなりますが、今後の認定申請には引き続き認定を受ける可能性があります。
※本センターは、国の補助金を活用しています。

受けられるようになる予定です。

人手不足でお困りの際は同センターの活用をご検討ください。

よろず支援拠点ホームページ <https://yorozu.smrj.go.jp/>

資材動向 中東情勢による印刷インキの現況について

インキ工業会は4月2日、中東情勢による印刷インキの現況について、印刷関連団体に声明を発表しました。

<インキ工業会声明>

中東情勢の緊迫化に伴い、原油およびナフサの供給が不安定に推移しており、これらを基礎原料とする溶剤、樹脂等において、原料調達面での制約（過去の実績に基づく供給制限や供給停止、大幅な納期遅延）が発生しています。

特にグラビアインキ等に使用する有機溶剤では、需要を賅えないケースも発生し始めています。さらに購入資材全般にわたり、これまでにない規模で価格が急騰しており、

調達コストに上昇圧力が生じています。

また、市場全体における供給不安を背景とした「駆け込み需要」が急増しており、原料の調達制限が続く中、全受注への対応が困難となってきております。この状況はインキの製造販売において、極めて深刻な状態です。

会員各社では、供給懸念のある原料に関しては可能なものは代替品に変更、現在の状況を説明し、納期、数量、品目などのご理解をいただきながらインキの供給継続と延命に努めています。また経済産業省とも密接に連絡をとりながら、原料の確保に最大限の努力をいたします。

これら諸般の事情をご賢察の上、何卒、印刷物制作にあたりましては、特段のご配慮をいただきますよう、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

Horizon
Change the focus

Horizon Smart Factory 2026 in HIP

無人化との共存

FIRST TOUCH

[For Japan Days] 国内プログラム期間
28 WED – 30 FRI
Oct. 2026
10:00 – 17:00

[For International Days] 海外プログラム期間
4 WED – 6 FRI
Nov. 2026

株式会社ホリゾン 本社びわこ工場内 Horizon Innovation Park
(滋賀県高島市新旭町旭1600)

2026年、ホリゾンは「無人化との共存」という新たな領域に挑みます。

本イベントでは、印刷・後加工・梱包・運搬の全工程で実現された無人システムをさらにブラッシュアップ。
AGV、ロボット、さらにはドローンなど自律型技術を駆使し、人の介入を最小限に抑え、実際の印刷・製本現場での実運用を想定したフローを構築。

「無人化」に到達した次の挑戦。
新たな未来を切り拓くファクトリーオートメーションの姿を Horizon Innovation Park でご体感ください。

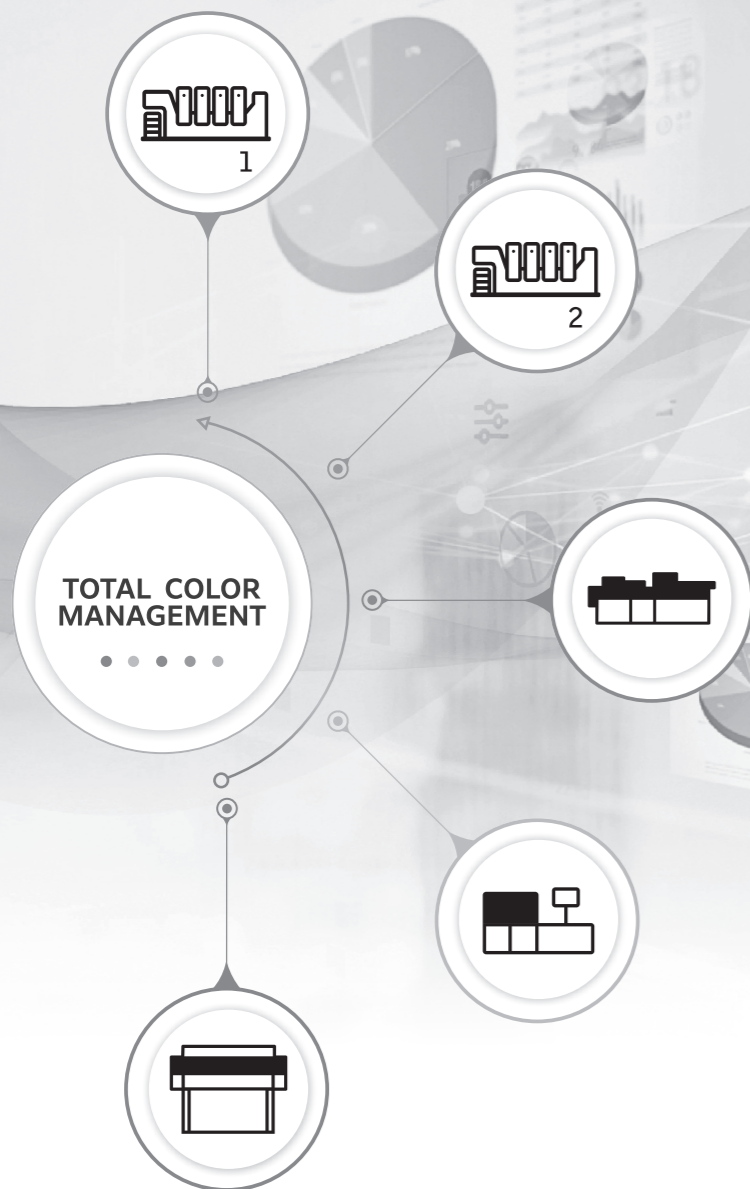
主催：ホリゾン・ジャパン株式会社 / ホリゾン・インターナショナル株式会社 / 株式会社ホリゾン
協賛：キャノンマーケティングジャパン株式会社 / ダックエンジニアリング株式会社 / 富士フイルムビジネスイノベーション株式会社 / ハイデルベルグ・ジャパン株式会社 / 株式会社 JSPRITS / コニカミノルタジャパン株式会社 / リコー・ジャパン株式会社 / 理想科学工業株式会社 / リョービ MHI グラフィックテクノロジー株式会社 / 株式会社 SCREEN グラフィックソリューションズ
協力：株式会社パリュマシーンインターナショナル

最新情報はこちら

QRコード

ホリゾン・ジャパン株式会社 www.horizon.co.jp

本社 〒101-0031 東京都千代田区東神田2-4-5 東神田堀商ビル5F TEL.03-3863-5361(代) FAX.03-3863-5360
東京支社 〒132-8562 東京都江戸川区松江5丁目10-9 TEL.03-3652-7631(代) FAX.03-3652-8083
京都支社 〒601-8206 京都府京都市南区久世大藪町510 TEL.075-933-3060(代) FAX.075-933-4025
福岡営業所 〒813-0034 福岡県福岡市東区多の津4-12-17 TEL.092-626-8111(代) FAX.092-626-8112
仙台サービスセンター 〒984-0002 宮城県仙台市若林区卸町東1-7-31 TEL.022-782-2821(代) FAX.022-782-3068



「色」に関する課題を共に解決し、
生産効率の最大化を目指す
トータルソリューション。

印刷品質管理ソリューション

FFGS QC Navi

さまざまなジョブをつねに最適なコスト・時間で生産するには、
工程全体の品質の統一と安定化が必要です。
すなわち、「オフセット印刷・デジタル印刷の色品質が統一され、安定した状態」。
この理想的な生産環境の実現に向け、富士フィルムは、
長年にわたる印刷診断活動で得たデータや、独自の知見・ノウハウを活かし、
お客さまの生産設備に合わせた課題解決から、色品質の維持管理まで、
ワンストップでサポートいたします。

富士フィルムグラフィックソリューションズ株式会社



ユーザーサポート こそ商品

株式会社ショーワは、謄写版および付属品の販売と謄写印刷業の〈昭和謄写堂〉として、昭和3年に幅弓之助が創業しました。
創業者の幅弓之助は「良いものを売り、売ったものには責任を持つ事」に頑固なまでにこだわり続け、そのこだわりは創業から100年に向けて今なおショーワの社員一人一人にDNAとして脈々と受け継がれています。

長きに渡り、多くの取引先企業様より厚い信頼を寄せて頂けるのも、企業理念にもあります様にユーザーサポートという目に見えない、形のない「商品」だからこそ、付加価値を創造し続け、溢れる情報、市場状況を正確に分析・判断しうる知識とユーザーサイドで常に物事を考える「誠意」が評価して頂けているものと考えています。

今後も常に「ユーザーサポートこそ商品」の企業理念、創業者・幅弓之助の熱い志を胸に社員一同業務につとめていく所存です。

21世紀のグラフィックアーツを共に考えるショーワユーザー会

コラボレーション&リサーチ ユーザー会で密に情報交換

SHOWA会

年間活動
○研修会 ○工場見学 ○総会・幹事会
○会報・メールマガジンの発行 ○有志グループ活動

問い合わせ、入会お申込みは事務局まで
SHOWA会事務局 TEL.03-3263-6141 FAX.03-3263-6149



株式会社

プリントメディアの総合商社

<http://www.showa-corp.jp/>

第61年度・第6回理事会 議事録

ジャグラは3月19日（木）、ニッケイビル8階会議室ならびにZoomで第61年度第6回理事会を開催しました。理事会議事録抄録を報告します。

【第一号議案 役員の派遣・スケジュールに関する件

〔提案内容〕

役員の派遣・スケジュールを別紙のとおり決定したい。（巻末参照）

12月9日（水）に予定していた正副会長会議は、日印産連ステアリングコミティと日程が重なったため、日程変更予定

〔検討の経緯〕

議場に質問・意見を諮ったところ、地協、支部総会の一部を追加し、満場一致で承認した。

【第二号議案 第61回定時総会の議案に関する件

〔提案内容〕

第61回定時総会の議案に関する件について、下記のとおり提案する。

- 第一号議案 第61年度事業報告書の承認に関する件
- 第二号議案 第61年度決算報告書の承認に関する件
- 第三号議案 第62年度事業計画書の承認に関する件
- 第四号議案 第62年度収支予算書の承認に関する件
- 第五号議案 役員選任に関する件
- 第六号議案 入会金および会費の賦課徴収方法に関する件
- 第七号議案 その他に関する件

《主な意見・質問》

議場に質問・意見を諮ったところ、発言はなく満場一致で承認した。

- 第六号議案については、新たに追加した「入会金および会費の徴収方法」に関する項目へ「会費の賦課徴収方法については、4～9月分を7月、10～3月分を1月の2期に分けて年額の二分の一ずつを支部長が徴収し、本部に納付する」と追記する件について、総会の承認を得る。

【第三号議案 役員推薦委員会報告（承認事項）

〔提案内容〕

役員推薦委員会より、推薦状況について報告する。

〔検討の経緯〕

松下役員推薦委員長より、別紙資料（p14）の役員候補者一覧が完成した旨、報告があった。

その後、役員候補者一覧にあがった役員候補者を第61回定時総会第五号議案「役員選任に関する件」に上程する旨、議場に質問・意見を諮ったところ、発言はなく満場一致で承認した。

【第四号議案 第62年度体制案に関する件

〔報告内容〕

第62年度体制案に関する件について、別紙のとおり提案する（別送総会資料参照）。

〔検討の経緯〕

- 原田大輔副会長より、別紙資料内「第62年度体制図案」および当日資料内「ジャグラ委員会体制（2026年度）案」をもとに、下記説明があった。
- 会員拡大委員会を設置。
 - 対外対策検討会議は、日印産連からの要望の受け皿。その他展示会出展などの検討、出展準備等を行う。

- 各事業および委員会の事業内容は、当日資料内「ジャグラ委員会体制（2026年度）案」に記載したため、ご一読いただきたい。

結果、現在ジャグラショートカット委員会で進めているスクールのオンライン化を担当する委員会を新設することとなった。その他の事業・委員会体制については承認された。

《主な意見・質問》

- 笹岡誠理事：対外対策検討会議が検討する内容を具体的に知りたい。また、現在ジャグラコンテスト委員会が日本イラストレーション協会とアライアンスを進めているが、今後は対外対策検討会議で対応してもらえるのか。
- 原田大輔副会長：対外対策検討会議で検討する内容は、日印産連等業界団体からの要望でジャグラとして何らかの活動をしていく必要があった際に臨時で設置し、必要な人員を配置して対応していくことを想定している。日本イラストレーション協会とのアライアンスについて対外対策検討会議で対応するかどうかは、今後検討する。
- 武川優理事：ジャグラショートカット委員会が新体制図案の中に入っていないが、スクール運営についてはどの委員会が受け皿になるのか。
- 原田大輔副会長：スクール運営については赤字が続いており、ジャグラ会員の受講者も少ないことから、常設のスクール会場は閉鎖する方向で検討したい。一方で、公益社団法人日本広報協会から委託を受けて実施している来場型の研修については、契約上7月まで常設スクール会場で実施し、その後オンデマンド配信へ移行することとなったため、喫緊の課題としてその対応を事務局内で進めることとした。今後のスクール運営および委員会の設置については、その課題に見通しがついでから検討することとしたい。
- 武川優理事：ジャグラショートカット委員会では、公益社団法人日本広報協会の委託研修をオンデマンド配信へ移行することは別に、常設講座をオンラインで開催する方法を模索し続けてきた。今後も委員会を立てて講座のオンライン化を継続的に検討すべきではないか。
- 笹岡誠理事、武川優理事：ジャグラショートカット委員会は、来期も事業を継続する前提で来期4月以降に開催予定のオンラインセミナーを企画している。その開催はどうすべきか。
- 中村盟理事、神山明彦副会長：スクールのオンライン化は教育研修支援委員会を受け皿として検討していくのがよいのではないか。
- 岡達也副会長：スクール運営を教育研修支援委員会で検討する案が出ているが、別途担当委員会を設置したほうがよいのではないか。
- 谷川聡理事：税法上の事業会計年度3月末が区切りだが、事業としては6月総会終了時までが区切りとなるため、現ジャグラショートカット委員会で企画しているセミナーも、現委員会の責任において総会終了までに実施して問題ないのではないか。
- 笹岡誠理事：DTPスキルコンテスト委員会の下にスクールオンライン化準備委員会を設置し、運営にかかる経費等を試算し改めて理事会で議論してはどうか。
- 松下忠理事：スクール事業をいったん収益事業から外して考えてみてはどうか。
- 岡本泰会長：スクール事業を収益事業から外すのは経費の観点からも難しい。まずはオンライン化準備委員会で収益化で

きるか検討するのが望ましい。

- 戸来一裕理事：年賀状デザインコンテストは作品展の部門の一部になるとありがたい。スクールオンライン化については、遠方からも講座に参加できるようになるので賛成である。
- 渡辺辰美理事：年賀状デザインコンテストは応募数が多かったが、その理由のひとつに取り組みやすさがあったと思う。年賀状デザインコンテストに代わるデザインコンテストを実施してもらいたい。
- 後藤卓也副会長：年賀状デザインコンテストは見本帳作成を廃止し、デザインコンテスト自体は継続してもいいのではないか。
- 樋貝浩久理事：過去に実施した年賀状デザインコンテストの応募作品データで素材集を作成し、配布してはどうかと考えている。
- 岡本泰会長：DMコンテストやガリ版コンテスト等、新たなコンテストを企画しても面白い。作品展委員会で検討していただきたい。
- 原田大輔副会長：地協・支部活動支援委員会が新体制図に載っていない件について質問があった。本委員会は地協活動支援金の申請窓口となっていたが、来期はその申請窓口を正副会長会議に変更する。なお、地協・支部の活動支援事業については、教育研修支援委員会が担当していくことを想定している。

【第五号議案 新入会員承認に関する件

〔提案内容〕

12月1日から2月28日までの下記新入会員について、承認いただきたい。

| 入会日 | 支部 | 会社名 | 従業員数 | 業務内容 |
|-------|-----|------------|------|--------------------------------|
| 1/1 | 城西 | (株)アウラ | 5 | 事務用品、横断幕、看板等製作 |
| 12/10 | 城東 | (株)恒和プロダクト | 3 | デザイン制作、印刷、ロジスティクス、イベント企画、グッズ企画 |
| 2/20 | 千代田 | (株)東洋ビジネス | 5 | 紙製手提げ袋等 |
| 2/26 | 城西 | (有)アテネ社 | 3 | 印刷製本 |

《検討の経緯》

田中専務理事より、本議案は承認事項ではなく報告事項である旨、訂正があった。議場に質問・意見を諮ったところ、発言はなかった。

【第六号議案 その他に関する件

1. 賛助会員退会の件

田中専務理事より、岩通ケミカルクロス株式会社が2026年1月31日付で退会した旨、報告があった。

2. 予算執行状況

谷川理事より、予算執行状況について別紙資料とともに下記説明・報告があった。

- 70周年記念誌は若干の利益が出る見込み。利益分は雑収益として処理したい。
- プライベートマーク収入は多い年と少ない年が交互に訪れる。今年は少ない年に該当するが、予算より多くの収入を得ることができた。一方、DTP教室事業は予算より収入が少ない結果となった。
- 支出についてはほぼ予算通りで収めることができた。総務費用が少し予算オーバーとなったが、これは海外視察のための出張費分である。
- 大規模修繕は予算3000万円のところ、今期中に予定していたエレベーター修繕工事が来期に持ち越しとなったため、2890万円の支出となった。
- 大規模修繕を除くと、最終的に400万円ほどの利益が出た。
- 賛助会費とジャグラBB分担金は賛助会員退会により減収し

た。正会員会費については、青森・奈良・宮崎が未入金となっている。

《予算執行状況に関する主な意見・質問》

- 稲満信祐理事：DX問い合わせ対応システムの費用は今期経費に掲載されているか？
- 田中専務理事：今期経費には掲載されていない。

3. 作品展応募状況の件

作品展応募状況について、作品展委員会の戸来一裕委員長より「現在250点ほどの応募が来ている。募集締め切りが迫っているの、各所への声かけをお願いしたい」との呼びかけがあった。

4.SPACE-21からの報告

森孝副会長より、四国4県の若手経営者を中心とした青年部「SPACE-21 四国」が結成された旨報告があった。また、イベントとして「SPACE-21 四国結成式・フォーラム&総会 in 高松」が4月18日に開催されるため、ぜひ参加して欲しいとの呼びかけがあった。

5. ジャグラ文化典大阪大会の件

松下忠理事、岡達也副会長より、ジャグラ文化典大阪大会について、参加登録と広告出稿をお願いしたい旨、呼びかけがあった。

本村豪経理事より、ジャグラアプリに掲載されている大阪大会関連告知について、協賛広告のお願い文書がリンク切れになっている件について確認があった。

6. 優良従業員、功労者表彰の件

阿部事務局次長より、優良従業員・功労者表彰の申請を4月17日締切で募集中のため、支部で推薦したい方がいる場合は期限までに申請いただきたい旨呼びかけがあった。

7.JP2026 後援名義許可の件

田中専務理事より、2026年5月20日（水）～22日（金）インテックス大阪にて開催されるJP2026後援名義使用について依頼が来たため、承諾する旨報告があった。また、岡本泰会長より、JP2026にはジャグラが出展するため、ブース当番にご協力いただける方を募集中である旨、お願いの呼びかけがあった。

8. 大塚商会イベント告知

岡本泰会長より、2026年4月23日（木）～24日（金）大塚商会本社ビルで開催される「Labo & コラボレーション Vol.8」に印刷革新会が出展するため、ぜひ見学にお越しいただきたい旨、呼びかけがあった。

9. 日印産連報告

①特定技能制度にかかる対応について

岡本泰会長、田中専務理事より、DTPに関する特定技能制度について、現在日印産連を窓口に進められているが、ジャグラの方に十分な情報が共有されていないため、抗議した旨報告があった。

②取引適正化実態調査アンケートについて

田中専務理事より、業界として取引適正化実態調査アンケートを実施するため、回答にご協力いただきたい旨、呼びかけがあった。また、日印産連より印刷価格転嫁に関する資料が提供されたため、ジャグラ会員への展開方法を検討している旨、報告があった。

③環境ビジョンと環境表彰制度について

田中専務理事より、日印産連が策定した「カーボンニュートラル行動計画」および「循環型社会形成自主行動計画」について、ジャグラ会員の参加社数が少ないため、理事を中心に参加していただきたい旨、呼びかけがあった。

10. 会員名簿デジタル化に関する報告

本村豪経理事より、当日配布資料の内容に基づき、広報委員会で検討した会員名簿デジタル化について報告があった。

2026年 理事・監事選出候補者リスト

| 選出母体 | 種別 | 定数 | 氏名 | 会社名 | 支部 |
|---------|--------|----------|--------|----------------|-------|
| 北海道 | 理事候補者 | 1人 | 藤田 靖 | 株式会社プリプレス・センター | 北海道 |
| 東北 | 理事候補者 | 2人 | 戸来 一裕 | 株式会社興版社 | 岩手県 |
| | | | 井上 貴寛 | 有限会社三共印刷所 | 福島県 |
| 関東 | 理事候補者 | 3人 | 高橋 亮太 | 有限会社高橋平版社 | 栃木県 |
| | | | 樋貝 浩久 | 有限会社東和プリント社 | 山梨県 |
| | | | 露木 貴弘 | 株式会社スクラム | 神奈川県 |
| 東京 | 理事候補者 | 7人 | 中村 盟 | NS印刷製本株式会社 | 新宿地区 |
| | | | 笹岡 誠 | 有限会社ドゥ・プラン | 城西地区 |
| | | | 武川 優 | 株式会社緑陽社 | 三多摩地区 |
| | | | 齋藤 秀勝 | 株式会社文化ビジネスサービス | 港地区 |
| | | | 稲満 信祐 | 株式会社いなみつ | 港地区 |
| | | | 笹井 靖夫 | 共立速記印刷株式会社 | 文京地区 |
| | 西谷 毅 | 西谷印刷株式会社 | 文京地区 | | |
| | 監事候補者 | 1人 | 鈴木 将人 | 株式会社東京技術協会 | 港地区 |
| 北陸 | 理事候補者 | 1人 | 黒沢 康憲 | 株式会社谷印刷 | 石川県 |
| 東海 | 理事候補者 | 1人 | 神山 明彦 | 株式会社カミヤマ | 愛知県 |
| 近畿 | 理事候補者 | 3人 | 岡 達也 | あさひ高速印刷株式会社 | 大阪府 |
| | | | 佐藤 元 | 株式会社イデアル | 大阪府 |
| | | | 立木 哲生 | 株式会社あおぞら印刷 | 京都府 |
| 中国 | 理事候補者 | 1人 | 山本 康彦 | 山五青写真工業株式会社 | 山口県 |
| 四国 | 理事候補者 | 1人 | 山中 克彦 | ブランド印刷株式会社 | 徳島県 |
| | 監事候補者 | 1人 | 森 孝 | 株式会社松栄印刷所 | 愛媛県 |
| 九州 | 理事候補者 | 1人 | 本村 豪経 | アイメディア株式会社 | 福岡県 |
| 全国 | 会長候補 | 1人 | 原田 大輔 | 株式会社グッドクロス | 城南地区 |
| 全国または員外 | 専務理事候補 | 1人 | 田中 良平 | 株式会社クイックス | 全国 |
| 会長候補指名 | 理事候補者 | 3人 | 谷川 聡 | 株式会社大光社 | 京都府 |
| | | | 瀬尾 淳 | 株式会社広瀬印刷 | 広島県 |
| | | | 楠藤 治 | ディメンションナントウ | 徳島県 |
| 直前会長 | 直前会長 | 1人 | 岡本 泰 | 株式会社クイックス | 愛知県 |
| 青年部 | 理事候補者 | 2人 | 小澤 孝一郎 | 株式会社オズプリンティング | 山梨県 |
| | | | 松谷 勝広 | 株式会社松谷メールサービス | 文京地区 |
| | 監事候補者 | 1人 | 前沢 寿博 | マエサワ税理士法人 | 員外 |

理事候補者 29人

監事候補者 3人

MOTOYA

いろいろなコトは モトヤにご相談ください!!



琴音 愛

皆様と共に歩み続けるモトヤは、
皆様のお困りごとを解決する
「コトウリ」のご提案を続けます。

※詳しくは…



そして、 SDGsのゴールの実現に 協力していきます。



— 2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」への取り組み —

印刷現場の環境改善を考える



ECO no MISTは、
お客様と共に「環境」と「価値」を考える
モトヤの資材ブランド。
消耗品による環境改善を実現します。

※詳しくは…



※詳しくは…



多くの人へ情報やイメージを伝えていく
美しく、効果的に。
社会への負荷も可能な限り抑制していく
サインシステムの枠を超えた、ルーファス。

人に、社会に、ルーファス



内照式ファブリックサイン

印刷業界の人材採用をお考えの企業様

◇社員紹介 ◇紹介予定派遣 ◇人材派遣 ◇業務委託などのご相談は…

モトヤ キャリアエージェント部へ

大阪 ☎(06)6358-9124 / 東京 ☎(03)3523-8719

人材派遣業 派 27-030254 / 人材紹介業 27-ユ-030174



印刷のソリューションプロバイダー
株式会社 モトヤ

大阪 〒530-0038 大阪市北区紅梅町 2-8 ☎(06)6358-9131(代)
東京 〒104-0032 東京都中央区八丁堀 4-5-5 ☎(03)3523-8711(代)
横浜・千葉・名古屋・京都・神戸・姫路・福岡

PRINTING

東京リスマチック株式会社は、印刷を軸に、企画・制作、製造・セットアップ、そして在庫保管から配送まで、全ての領域を網羅するワンストップサービスをご提供いたします。



CREATIVE

DIGITAL CONTENTS

LOGISTICS



SPACE-21 全国キャラバンより 創業 118 年の「鍛冶屋精神」で挑む、 印刷×農業× AI の異能経営 株式会社アドヴォネクストの取り組み

SPACE-21 は 2 月 20 日、山梨県甲府市の勝沼醸造株式会社で全国交流キャラバン in YAMANASHI を開催しました。同イベントでは、「地域資源を世界ブランドへ！」をテーマに、トークセッションが行われました。トークセッションでは、勝沼醸造株式会社の有賀雄二会長が甲州ワインのブランディング戦略について紹介したほか、山梨を拠点に広告・Web・システム開発を融合したクロスメディア戦略を展開する株式会社アドヴォネクストの井上雅博社長が印刷と AI を取り入れた農業支援の取り組みについて講演しました。講演の概要を紹介します。

であり、常に変わり続けなければならない宿命にあります。」
この「業態そのものが消える」という歴史的教訓が、現在の「印刷×農業× AI」という独自の三本の矢を生み出しました。

1. 序論： 業態転換の歴史と「生き残り」への危機感

1908 (明治 41) 年、山梨の地で「鍛冶屋」として産声を上げた同社。江戸時代から続く伝統的な家業でしたが、明治の工業化の波により、地域に根付いた鍛冶屋は次々と姿を消しました。この時、生き残りをかけて「印刷業」へと舵を切ったのが、現社長の曾祖父でした。

代表の井上氏は、現在の印刷業界を取り巻く状況を、かつての鍛冶屋の衰退と重ね合わせています。

「1990 年代後半、出荷額 9 兆 7,000 億円、事業所数約 4 万 8,000 を誇った印刷業界は、現在 5 兆円を割り込み、事業所数も 1 万 3,000 台へと激減しました。約 4 分の 1 にまで淘汰された中で生き残った我々は、ある種の『変態』

2. 農業イノベーション： たのみ農園が示す 3 つの重点ポイント

2011 年、同社は「農業を未来につなぐ」という使命を掲げ、農業生産法人「たのみ農園」を設立しました。日本の稲作従事者の 90% が 60 歳以上という絶望的な人口構造に対し、印刷会社としての IT リテラシーを武器に立ち向かっています。

① 乾田直播 (かんでんちょくはん / DDSR) による構造改革

従来の稲作の常識である「育苗・代かき・田植え」という工程をスキップし、乾いた田んぼに直接種をまく「乾田直播」を実践しています。

省力化の極致：最も過酷な作業である苗の管理や田植えが不要になります。

経営的判断：収穫量は従来の 55% 程度に留まりましたが、コストが半分以下で済むため、「利益率」の観点では十分に持続可能なモデルです。

多能工化の促進：印刷 (DTP) 担当者が、業務の合間



業 界 の 動 き

に田んぼの見回りを行う体制を構築。既存の雇用を守りつつ、一次産業へとリソースをシフトさせています。

② 精密農業（スマート農業）の実装

「農業には産業基盤がない」という現状を打破するため、製造業（印刷業）のノウハウを導入しています。

標準化：勘や経験に頼っていた稲作をデータ化。35箇所に分散する計8ヘクタールの圃場を効率的に管理するため、ITツールによる進捗・生育管理を徹底しています。

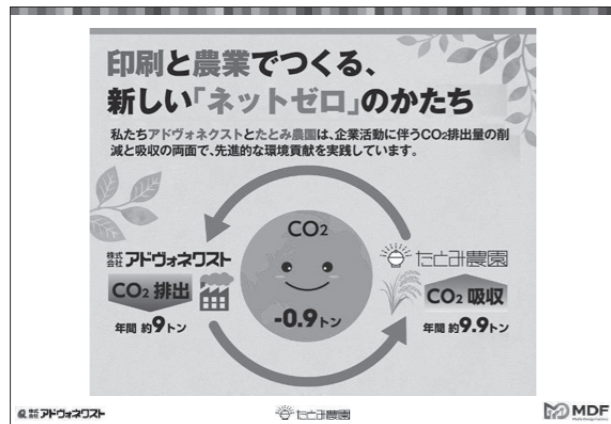
異業種連携：山梨大学と連携し、レンゲの根から抽出した乳酸菌とお米を組み合わせた乳酸菌飲料を開発。自治体の記念品に採用されるなど、付加価値の向上を図っています。

③ 環境価値のマネタイズ（J-クレジット）

農業を「環境保全」という新たな商品として再定義しました。

メタンガス削減：稲作特有のメタンガス排出を抑えるため「中干し（水を抜く作業）」を延長。環境省・農水省の基準に基づき、年間9.9トンのCO₂削減クレジットを創出。

グループ内オフセット：印刷事業で排出するCO₂（約9トン）を農業部門で中和し、自社グループ内でのカーボンニュートラルを達成。これは大企業との取引において強力な武器となっています。



3. ドローン活用の3つの柱：

DXがもたらす地域インフラの維持

同社のDX戦略の象徴がドローンです。JAPAN DX Player AWARDの受賞背景には、単なる機械導入を超えた地域貢献の仕組みがあります。

① 超効率的な「請負型」防除サービス

高齢化により農業散布が困難になった農家に対し、受託サービスを提供しています。

圧倒的スピード：10アール（1,000㎡）をわずか4分で処理。

地域貢献：山梨県内80ヘクタールに及び防除を代行。「車を運転するのも危うい」高齢農家に代わり作業を担うことで、地域の農地を守るインフラとして機能しています。

② AI・衛星データ連携による「可変施肥」

ドローンにAIと衛星解析を掛け合わせ、精密な散布を実現しています。

NDVI解析：衛星写真から圃場ごとの「色の違い（生育のムラ）」を解析。

スポット散布：AIが「ここだけ肥料が足りない」「ここだけ虫に食われている」と判断した場所にだけ、ドローンがピンポイントで投下。資材コストを最小化し、環境負荷を抑えた「賢い農業」を実践しています。

③ 播種から多目的活用への展開

防除だけでなく、乾田直播における「種まき（播種）」にもドローンを活用。重機が入れない狭小地や複雑な地形でも、上空から正確に種を落とすことで、耕作放棄地の解消に貢献しています。

4. 地域活性化プロデューサーとしての展開

井上氏は、自社を「印刷会社」ではなく「地域活性化プロデューサー」と定義しています。

三方良しの流通モデル：苦境にある新聞販売店を配送拠点とし、重いお米を各家庭へ届けるルートを構築。販売店に手数料が入り、高齢者は買い物難民から救われ、同社はお米が売れるという循環を生んでいます。

デザインの力（マーチング委員会）：地域の情景をイラスト化して伝える活動を展開。「写真よりも心に届くイラスト」の力で、地域住民と深いコンタクトを図っています。

SDGsカフェの継続：地元で毎月1回、5年以上（約60回）継続している意見交換の場。これが自治体との包括連携協定へと発展しました。

5. 結論：「利」とは「幸せ」である

講演の締めくくりとして、井上氏は近江商人や石田梅岩の思想を引用しました。

「『利』とは単なる金銭的利益ではなく、仏教用語では『幸せ』を意味します。地域が元気になれば、我々も元気になる。自分一人で抱え込まず、多くのパートナーと手を携えて、山梨をAIと農業の先進地にしていきたい。」

100年前の「鍛冶屋」が鉄を打ったように、現在は「データ」と「土」を打ち、地域の新しい形を創り出そうとする同社の挑戦は、地方企業の未来を明るく照らしています。

ジャグラ

ジャグラ 70周年記念誌を発刊
歴史と未来展望を記す
70周年誌編集委員会

ジャグラは昨年、創立70周年を迎えたことから、この度、70周年記念誌「ジャグラ70年 歴史と未来展望」を発刊しました。

本書は、70周年編集委員会（中村耀委員長）が中心となって、約1年半をかけ、全日本謄写印刷業連盟（日謄連）結成70周年、社団法人日本軽印刷工業会（日軽印）設立60周年を記念して、2006（平成18）年から2025（令和7）年までの激動のグラフィックサービス業界を振り返るとともに、ジャグラの歴史と未来を展望する記念誌としてまとめました。

章立ては、ジャグラの歴史、年表、ルーツを辿る、特別企画、時代変遷、未来展望、資料の7ブロックから構成されており、それぞれのブロックは以下について記述しています。

◆歴史 主として前半は、『軽印刷全史』、50周年記念誌『進化を求め続ける印刷集団「ジャグラ」50年の歴史と展望』、『第57回ジャグラ文化典東京大会—創立60周年記念—』大会プログラム「ジャグラ60年の歩み—その挑戦と発展の歴史—」のまとめ



◆年表 2006（平成18）年から2024（令和6）年までのジャグラと社会の動き

◆ルーツを辿る ジャグラのルーツであるガリ版、孔版印刷に関する歴史と今、そしてジャグラに寄贈された若山コレクションを中心に孔版印刷の作品を一部掲載

◆特別企画 2010（平成22）年から現在（2026〈令和8〉年1月）のジャグラ会長を務めた歴代3会長による座談会

◆時代変遷 2015（平成27）年から2025（令和7）年までのトピックスとなる印刷通販、DX、生成AIにフォーカス

◆未来展望 印刷業界の現状とグラフィックサービス業界の次世代を担う若手による未来展望

◆資料 ジャグラ100年に向けて繋いでいく過去70年間の各種資料
会員の皆様におかれましては是非、ご一読ください。

イベント

JPA 後援会主催 AI セミナー開く
業態進化委員会も共催

JPA

3月17日、東京都文京区の嘉ノ雅 茗溪館で、学校法人日本プリンティングアカデミー後援会、ジャグラ業態進化委員会、東京都印刷工業組合経営革新マーケティング委員会ならびに城南支部共催によるAIセミナーが開催されました。

最初の基調講演では、フュージョン株式会社常務取締役の木村達夫氏が「印刷業界におけるAI活用の現状と展望 AI時代に求められる新たなマインドセット」をテーマに講演しました。木村氏は、単に作業時間を短縮する効率化ではなく、生み出す価値を増やすような業務プロセスの根本的な見直しが必要だと指摘しました。また、AI時代に人間が持つべき力として、「課題を見つける力」「全体をまとめる力」「品質を見極める力」の3つを挙げ、特に印刷業界が長年培ってきた品質に対する「審美眼」が大きな武器になると強調しました。さらに組織へAIを定着させるためには、ただツールを導入するだけでは失敗に終わると警告、新しい仕組みへの抵抗感から現場の管理職が壁になりやすいため、業務の評価基準にAI活用を組み込むなど、社内ルールとして強制力を持たせる仕組みづくりが不可欠であると説明しました。

続いて、株式会社ソウブン・ドットコム代表取締役社長の木

村崇義氏が「AIが変える印刷ビジネス 経営革新マーケティング委員会の挑戦」をテーマに招待講演を行いました。木村氏は、すぐに始められる身近なAI活用法として、音楽生成AI「Suno」を使った楽曲作りや、AIツール「NotebookLM」に社内資料を読み込ませて、営業用の提案資料や動画、漫画を自動作成する手法、安価なAIチャットボットの導入事例を紹介しました。大きな視点としては、AIによって様々な形式の情報を低コストで作れるようになったため、発信者側の都合ではなく、受け手一人ひとりが理解しやすい形式で情報を届ける時代に変わっていると述べました。そして、社会課題の解決と自社の利益を両立させる「ローカルゼブラ」という考え方を紹介し、中小企業でも自社独自の地域情報とAIを組み合わせることで、新たな価値を生み出せると語りました。

最後の特別講演では、株式会社瞬報社顧問の山口玲央氏が「動画制作の革命！生成AIで実現する次世代映像クリエイション術」をテーマに登壇しました。山口氏は、対話型AIを使った動画企画や台本の作成、映像を作り出すAIの活用法を解説しました。従来は時間がかかっていた初期提案の工程も、AIを使うことで、お客様の要望をもとに具体的な企画案や構成をその場ですぐに提示できるようになり、営業のプロセスが劇的に速まったことが報告されました。一方で、AIで誰もが簡単に動画を作れるようになるからこそ、AIへの具体的な指示の出し方や編集ノウハウで他社との違いを出すことがより重要になると説明。動画編集ソフトを使った自動文字起こしや音声のノイズ除去など、作業を効率化する機能も紹介され、AIで作った制作物の著作権については、「人間の創造性が加わることで権利が生じ得る」という考え方が示されました。



セミナー後の懇親会で司会をつとめた岡本会長（後援会副会長）



関連団体

第49回入学式・入校式を開催
新入生14名が入学

JPA

学校法人日本プリンティングアカデミーは4月2日、同校で第49回入学式および企業研修生入校式を執り行いました。

今年はここ数年で最多となる14名が入学しました。入学式、入校式では、JPAの花井秀勝理事長の式辞、チョウ校長の訓示に続いて、JPA後援会の浅野健会長、富士フィルムグラフィックソリューションズ株式会社の山田周一郎社長、日本印刷産業機械工業会の里見和男専務理事が祝辞を述べました。引き続き、新入生、研修生が決意表明を行いました。

後半は花井理事長による特別講演が行われ、「印刷ビジネスとマーケティング」をテーマに、DMを中心とした印刷物の価値について学びました。



イベント

JP2026でパネルディスカッション
ジャグラー岡本会長ら4団体代表が登壇

JP2026

JP産業展協会が主催する「JP2026 印刷DX展」が5月20日から22日までの3日間、大阪市のインテックス大阪で開催されます。会期初日の15時から、特別パネルディスカッションとして、全日本印刷工業組合連合会の瀬田章弘会長、全日本製本工業組合連合会の田中真文会長、日本グラフィックコミュニケーションズ工業組合連合会の錦山慎太郎会長そして、ジャグラーの岡本泰会長の4名が登壇します。パネルディスカッションでは「業界4団体会長の本音と覚悟を聞くーいま印刷業界に真に求められていること・その導線をどう考えるかー」をテーマに、印刷業界の未来を展望するヒントが語られます。ファシリテーターはバリューマシーンインターナショナルの宮本泰夫副社長が務めます。聴講無料。

また、会期中は展示ブース5-59でジャグラーも出展します。2月に東京で開催されたpage展で訴求したジャグラーメニューを大阪の地で展開します。会場にお越しの際は是非お立ち寄りください。

パネルディスカッションの申し込みは公式ホームページで受け付けています。 <https://jp-ten.jp/>



雑学コラム④1
野口聡の

47都道府県のお話（その39：神奈川県）

ジャグラー会報をご覧の皆様、こん〇〇は。ジャグラー東京・東大文京支部のアクティブ・野口です。

さて、今回取り上げるのは神奈川県です。最近の神奈川県との関りは大概ライブ（勿論乃木坂♪）でしかないのですが、今回は今まで行ったライブ会場の話、とか最初考えたのですがさすがに読者を置いてきぼりだろ、という心の声が聞こえたので、ぐっと自制して別の話題でも進めようかと思います。

まずは横浜中華街の話でも。今更書くほどでもありませんが日本最大規模の中華街であり、とりあえず行ってから何を食べるか、を考えられる貴重な場所だと思います。私も昔は月2・3のペースで行って食べ歩きしてました。

そんな中華街ですが、昨中華街の名店の一つでもあった聘珍樓の閉店がニュースになりました。

聘珍樓といえば、かつては周富徳大人が料理長を務め、萬珍樓や華勝樓と並んで中華街の本店として知られてましたが、時代の移り変わりでしょうね。寂しいけど。因みに私のお勧めのお店は同じく老舗の順海閣です。この名物は「元祖」と謳ってる焼売が知られていますが、私にとっては「海老の巻揚げ」です。私が通い始めた20年近く前からこれだけは必ず注文し

ている逸品です。本当に美味しいので興味が出た方は是非とも行って下さい。

さて、お腹を満たしたら少し散歩しましょうか。目的地はこれまた横浜の名所「港の見える丘公園」です。

横浜のおしゃれの象徴である元町のほど近く、山手の丘の上にあるこちらの公園ですが、その名前の由来はご存知でしょうか？

こちらの名前、戦後すぐに発売され大ヒットした「港の見える丘」という歌謡曲に因んで命名され、園内にはこの曲の歌碑も建ってます。有名な見どころといえば沢山のバラの花などが上がりますが、ここには大佛次郎記念館も建ってます。「鞍馬天狗」や「赤穂浪士」でお馴染みの作家ですが、実は横浜に生まれ、ここを舞台にした小説も多数書いており、没後にその蔵書が寄贈されてこの記念館が出来たそうです。

私の好きな作家の池波正太郎先生はエッセイの中で作家になるの前の戦前の頃に横浜の酒場で「おしゃれな格好をしてお酒を嗜んでる」大佛先生を何回か見かけていた、と書いてます。当時の流行だった時代小説の作家と後の偉大な時代小説の作家との邂逅たるやと思うとロマンありますね。

さて、つらつら書いてきましたが今回のお話はここまでです。お付き合いありがとうございます。

では今月の問題です。

問題：白川秀樹が生まれた高山市や小柴昌俊の研究施設がある飛騨市を通る為岐阜県や富山県が「ノーベル街道」という通称を広めようとしている日本の一級国道は何号線でしょう？

(正解は29ページ)

研美社

KENBISHA.COM

スマホタッチ一秒で
複数情報へ

ニアバイ
nearbyカード

デジタル名刺

スマホタッチ一秒で
単一情報へ

ユーアールエル カード
URLCARD

好きなURLリンクへー直線

1

**1秒で交換
1枚で無限に使える**

名刺に記載する、名前・メールアドレス・電話番号や、SNSなどの分散している情報を一枚に集約できる画期的なカードです。

1

1秒でSNSやWEBページへGO!

スマートフォンにタッチするだけで、SNSやウェブサイト、動画、画像、PDFなどをアプリ不要で表示できるICカードです。

2

プロフィールページに自分の情報を集約できる

ページ内デザインや、背景の設定も、最初にテンプレートから選べるのでカード発行後、クイックスタートが可能に！

2

クリエイター必須の作品集としても使える

写真集、動画、ポートフォリオ etc... 作品はカード1枚で持ち歩き。タッチ1秒で自己表現ができます！

3

テンプレートがあるから操作も簡単

設定はアプリ要らずで、専用の編集ページだけで完結。シンプルで直感的な操作が可能です！

3

自分だけのオリジナルデザインでカードが作れる

お気に入りの写真や自分で作ったデザインで、あなただけのオリジナルカードが出来ます。

『企業IT利活用動向調査2026』の結果を公表 ランサムウェア感染被害経験が45%

一般財団法人日本情報経済社会推進協会（JIPDEC）はこのほど、今年1月に実施した『企業IT利活用動向調査2026』の結果から、ランサムウェア被害と復旧に関する調査結果を公表しました。

国内で拡大しているランサムウェア攻撃による感染被害経験について質問したところ、45.8%が経験があることが分かりました。前回調査と比べて被害割合は若干減少していますが、身代金を支払わないケースが年々増加傾向にあり、その中でシステム・データが復旧できなかった場合は、10.5%から13.0%へと、2.5ポイント増加しました。

昨今、ランサムウェア被害は特定の業種、規模に限らず、あらゆる企業が経験する可能性が高いインシデントとして認識されつつありますが、被害を受けた企業について業種別で見ると、製造業がほかの業種と比べて多く、57.1%が被害にあっており、そのうち、身代金を支払っていないがシステム・データが復旧できなかった割合が18.2%を占める結果となりました。

また、従業員数規模別に見ると、300人以上の企

業で被害割合が5,000人規模以上の大企業とほとんど変わらないことから、規模の大小に限らず、ランサムウェア攻撃の対象となりつつあることが分かりました。

被害にあってからシステムの復旧までに要した期間について質問したところ、身代金支払いの有無に限らず、システム復旧に費やした時間として最も多かったのは「1週間～1か月以内」で34.7%となりました。

身代金を支払わず、自力で1か月以内にシステムを復旧させた企業が6割を超えているのに対し、長時間作業に費やしても復旧できず、作業を終えた企業も見られました。

企業がランサムウェア被害にあった後、原因究明や被害範囲のための調査、身代金支払い、システムの復旧・再構築、セキュリティ対策等のために発生した費用の金銭的被害額とし、どれくらいかかったかを質問したところ、「100万円～5,000万円未満」との回答で約半数を占めました。

金銭的被害がほとんど発生していないケースが

16.0%あった一方で、1億～10億円以上の被害が発生したとの回答が15.6%となりました。

ランサムウェア被害による影響として最も多かったのは、「復元不能なデータ喪失／データ破損」で51.3%となりました。前回調査と比べ変化が見られ

たのは「顧客情報／取引先情報等の機密情報漏えい」で、前回調査の29.3%から35.1%と、5.8ポイント増加しました。その他、業務停止や顧客離れによる売上減少も3ポイント増加が見られました。

JIPDEC『企業IT利活用動向調査2026』

| | 全体 | ランサムウェア感染状況 | | | |
|-----------|------|--------------------------------|------------------------------------|--|------------------------------------|
| | | 感染被害にあり、身代金を支払ってシステムやデータを復旧させた | 感染被害にあり、身代金を支払ったがシステムやデータは復旧できなかった | 感染被害にあり、身代金を支払わなかったためシステムやデータを復旧できなかった | 感染被害にはあったが、身代金は支払わずにシステムやデータを復旧させた |
| 該当数 | 507 | 83 | 139 | 144 | 141 |
| 1日以内 | 6.1 | 16.9 | 5.0 | 2.8 | 4.3 |
| 1日～1週間以内 | 23.5 | 26.5 | 21.6 | 15.3 | 31.9 |
| 1週間～1か月以内 | 34.7 | 33.7 | 33.8 | 38.2 | 32.6 |
| 1か月～2か月以内 | 21.3 | 16.9 | 21.6 | 28.5 | 16.3 |
| 2か月～3か月以内 | 7.9 | 2.4 | 10.1 | 8.3 | 8.5 |
| 3か月以上 | 3.9 | 2.4 | 5.0 | 4.2 | 3.5 |
| 分からない | 2.6 | 1.2 | 2.9 | 2.8 | 2.8 |

図2. ランサムウェア被害からのシステム復旧期間

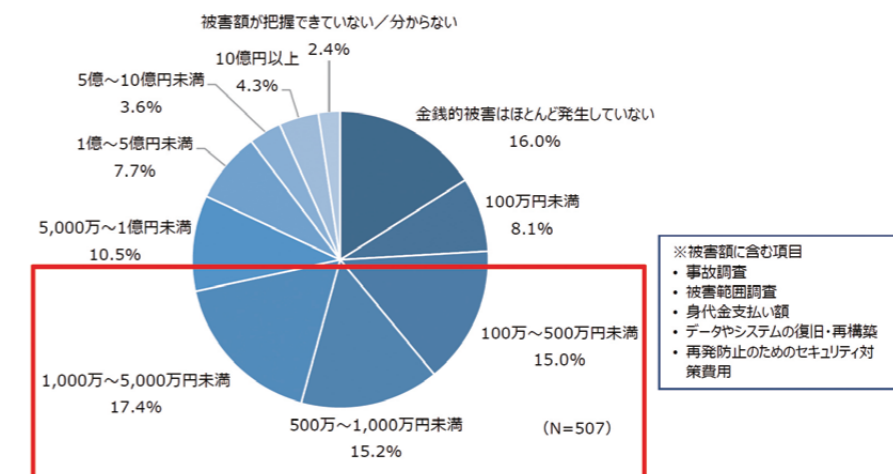


図3. ランサムウェア被害に対する金銭的被害額

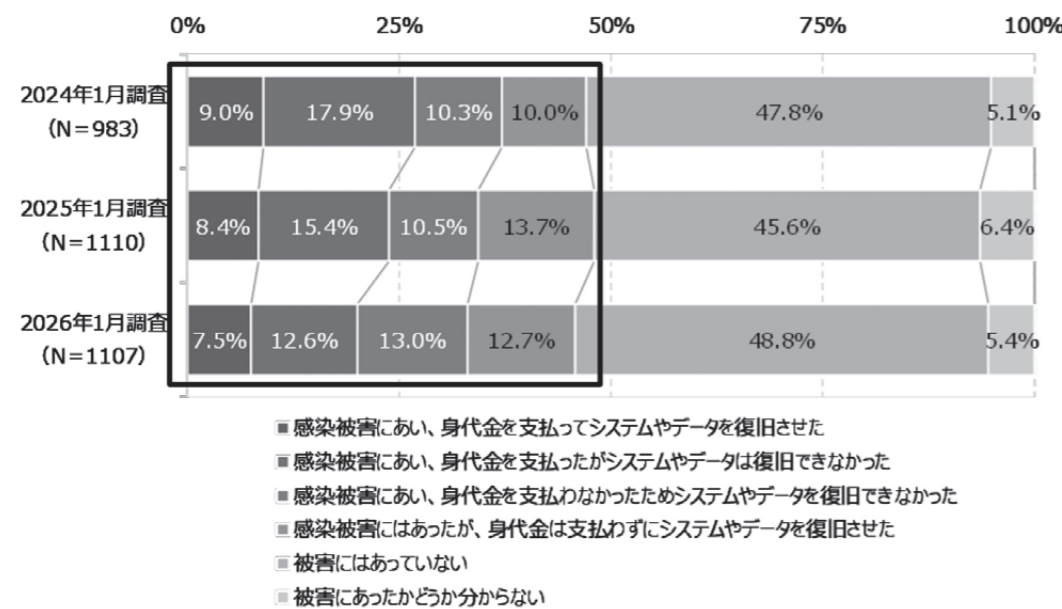


図1. ランサムウェア感染被害の状況

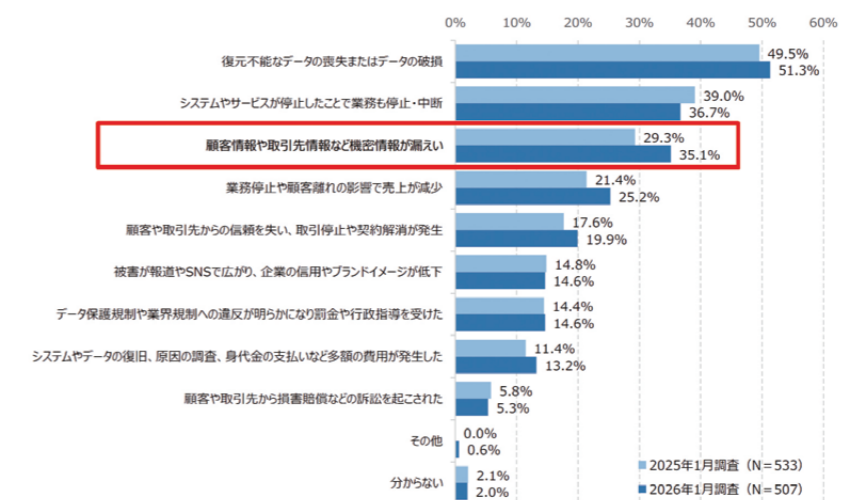


図4. ランサムウェア被害による影響

Girls Who Print Japan 印刷女子 活動のご紹介

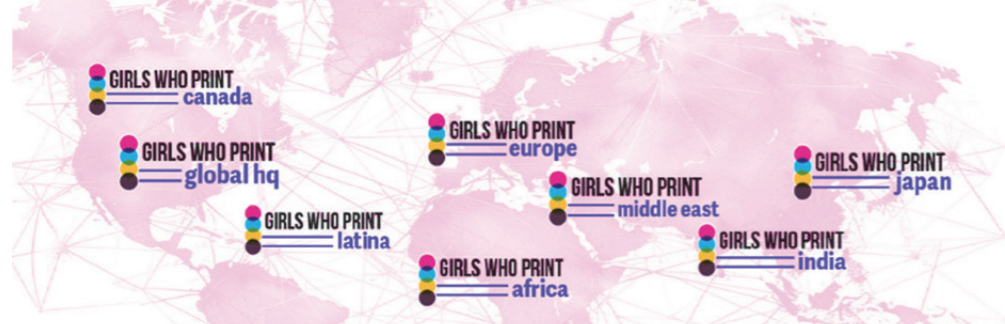
印刷女子

刷って、語って、つながって。

ワードに活動し、印刷業界の未来をより多様で魅力あるものを目指しています。

印刷女子（英語名 Girls Who Print Japan、略称 GWPj）は、印刷業界で活躍する女性たちの自主活動団体です。

米国発のコミュニティ「Girls Who Print」の日本支部として、「刷って、語って、つながって」をキーワードに活動し、印刷業界の未来をより多様で魅力あるものを目指しています。



印刷女子 交流ツアー in page 2026

ご参加くださった印刷女子の皆さん、あたたかく受け入れてくれた企業の皆さま、応援してくださったpage運営のJAGAT様、ありがとうございました！



SCREEN様のブースでは、スクリーン青木さんとリコー小林さんのトークセッションがおこなわれました。

青木さん 普段の業務だけでは、決して得られない、新たな視点や経験、ヒントを得られるのが、GWPjの魅力だと確信しています。

小林さん そうですね。GWPjの活動をいかに活用するかがポイントで、ここでの学びや想いを業務に役立てたいですね。

青木さん より多くの方にこの活動を知っていただき、未来を共に創造していきたいです。

小林さん 一丸となって、印刷業界を盛り上げていきましょう！

と、お二人の掛け合いは、その場にいた業界人の心をつかみました。その様子は右記をご覧ください。検索 → 「印刷女子.style」

これまでのワークショップ活動内容ご紹介



● マーケティング/ブランディングのミニ講座

● 女性中心の業界イベント/交流会を運営する意義/目的は？

● 印刷の魅力を

● 持続可能な業界に向けて

● マイビジョンシート作成

Girls Who Print Japan : 「印刷女子」 ミッション・ビジョンと価値創造モデル

ミッション

- 出会い・学び・共感を通じて、印刷業界で働く女性たちが互いに力を高め合い、次世代のリーダーを育む支援的なコミュニティを築きます。

ビジョン

- 印刷業界の魅力を社会に発信し、多様なステークホルダーと連携しながら誰もが活躍できる持続可能な印刷業界の未来を創造します。
- 誰もが自分らしいリーダーシップを発揮し続けられる環境を整え、若い世代も憧れる業界へ進化させていきます。

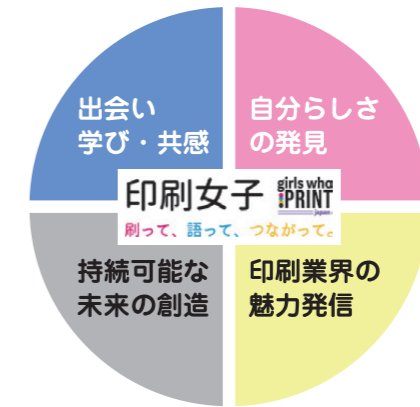
価値創造モデル

世代や職種を越えてつながり、学び合い、支え合うコミュニティを育む。

つながる 学ぶ 分かち合う

多様な連携で、誰もが活躍できる、変化に強い業界の未来を共に創る。

共創する つなぐ 進化させる



価値観や強みに気づき、自分らしいキャリアとリーダーシップを描く。

気づく 描く 選ぶ

女性の声で印刷の価値と楽しさを伝え、次世代に興味と希望を届ける。

伝える 惹きつける 広がる

日本事務局メンバーの紹介 グループの運営をボランティアで支えています。



小林 可奈
株式会社リコー
リコーで市場情報分析や事業計画の策定・推進を担当しています。印刷業界の多様性とサステナブルな発展に関心があり、Girls Who Printを通じて国内外の女性とつながり、学び合える場になりたいと考えています。



青木 理恵
株式会社SCREENグラフィックソリューションズ
ビジネス統轄部 販売推進部
社会人としても業界の知識についてもまだまだ学びの途中ですが、印刷業界と本業界における女性の活躍に一層の彩りを添えていきたいという想いで活動しています。この活動での出会いや学びは財産です。「出会い・仲間・共感」をモットーに、会社や職種、年代の壁を超えて、語りあい、繋がる場所がここにあります。



加藤 三紀子
一般社団法人 日本印刷産業連合会
印刷文化の振興を目的として業界団体を活動しています。造本装幀コンクールをはじめ、全国カレンダー展や全国カタログ展など、紙の魅力や印刷物の価値を広く伝える各種コンクールなどを運営しております。これらの活動を通じて、印刷技術やデザインの可能性を発信するとともに、紙媒体ならではの表現力やぬくもりを次世代へとつないでいくことを目指しています。展示会やイベントなどを通じて、多くの方々に「紙のよさ」「印刷物のよさ」を感じていただけるよう努めています。多様な立場の印刷業界で働く皆様とGirls Who Printを通じて交流することを、毎回とても楽しみにしております。



永嶋 ゆり
株式会社日本HP デジタルプレス事業本部 インダストリアルセールス本部 マーケティング部 シニアスペシャリスト
デジタル印刷機メーカーのマーケティング業務を中心に、長く印刷業界に携わってきました。技術革新が進む中でも、印刷が持つ“伝える力”や“心を動かす力”は変わらず、そこに楽しさと可能性を感じています。Girls Who Printでは、印刷に関わるすべての人とフラットにつながりながら、業界の魅力や価値を発信していきたいと思っています。



関野 里美
セントラル印刷株式会社 代表取締役
東京都生まれ。30代まで旅行会社に勤務。その後家業である印刷会社に入社。オフセット、デジタル印刷製本工場を東京と真ん中の神楽坂で稼働中。製造の印刷業から情報伝達の印刷業にアップデート。次世代への引継ぎも、業務も働き方も未来型の印刷業を展開中です。

印刷女子は、世代や職種を越えた交流/つながりを生み出し、印刷の価値や楽しさを業界内外へ発信する活動です。女性も、若い世代も、自分らしく活躍できる印刷業界を目指しています。

〈次回の活動〉2026.3～6月は、月1回のオフ会（ミニ交流会）を計画！

詳細&参加方法は「印刷女子通信（メルマガ）」でご確認ください。

刷って、語って、つながって！ 集まろう！ 印刷女子たち！

多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

印刷女子通信（メルマガ）への登録はこちら

Googleで検索

もしくは

QRコード

お問い合わせ

印刷女子.style



検索 → 「印刷女子 お問い合わせ」

印刷会社が「プリン」を売ってみた

株式会社東海林印刷
代表取締役社長 東海林 正豊

ティア活動がメインでしたが、今では若手社員たちが年間計画を作り、そのプランに沿って活動しています。

そんな中、昨年初めのプラン作成会議で社員から「プリントにかけてプリンを売ってみたい!」と提案があったのです。

スイーツを通じて “地域を明るく元気にしたい!”

奇抜なアイデアでしたが、瞬間的に“面白そう!”と感じたのと、何より社員から新しい意見が出たことが嬉しかったです。食品の販売は本業の印刷とはかけ離れたことですが、清掃活動といったボランティア活動も同じで、比較的抵抗感なく取り組めたと感じています。準備に時間はかかってしまいましたが、提案から約1年後、ご縁あって近くのスイーツ店「横森菓子店」さんに賛同していただき、また3年前にあった水害災害をともに乗り越えたこともあり、実施に至ることができました。

印刷会社が販売するスイーツ「印刷=プリント」から「プリント・・・」へ、スイーツを通じて“地域を明るく元気にしたい!”という社員の発想から、会社始まって以来の取り組みとなりました。



協力いただいた横森菓子店
高橋さん作業風景

予想以上の大反響! 地元新聞掲載から テレビ局の取材依頼まで

とは言え、食品の販売、しかもスイーツを売ったことなどないもので一から手探りで進めました。仕事としてお客様の告知チラシや販促品を手掛けてはいましたが、いざ自社のこととなると勝手が違い、それなりの苦労もありましたが今後の提案にもつながるいい経験だったと思います。自社で販売するにあたり食品衛生管理者資格を取得し、保健所への届出等も必要だったりといい刺激でした(笑)。



TV取材様子

仕分け作業風景

小分け袋

メッセージカード

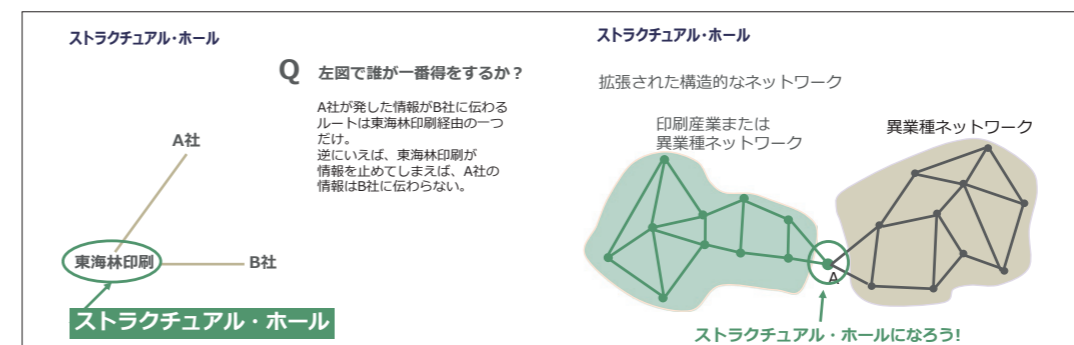
そんなこんなで発売日は決まっていたのですが、告知できたのは約2週間前でした。2日間の限定販売で予定数は3つの味で計100個。告知も既存のお客様へのビラ配りと自社SNS、それに地元新聞社への取材依頼のみでしたが、すぐに新聞に取り上げてもらい、販売1週間前には予定数100個は予約でいっぱいとなりました。売れ残らずホットとしていたのもつかの間、販売2日前にテレビ局から取材依頼があり、イケイケどんどんで取材を受け、急遽300個まで増産しましたがあっという間に予約でいっぱいとなりました。

地域企業をつなぐハブ役企業へ

今回のプリン販売は思い付きや突発的なものではなく、長年社内で培ってきた“地域の課題解決企業になる”という指針が浸透してきた結果だと考えています。

昨年度の社内決算報告会議で発表した中期経営計画-3年後あるべき姿-の一つに、

- 地域貢献活動の継続
 - ・地域、顧客を巻き込んだ活動を継続
 - ・情報発信によるファン層の獲得→口コミ→「この会社は面白い」というイメージ付け
- 地元企業をつなげる「ハブ役」企業へ
 - ・異なる企業やグループ、または組織外の様々なステークホルダーとの橋渡し役を担い、情報共有や協力体制の構築を促進する企業
 - ・情報格差をなくし必要な情報を効率的に共有し新たな



ビジネスチャンスを創出する → ストラクチャル・ホールの考え方

となるよう努めることを共有しました。

ストラクチャル・ホールとは、シカゴ大学のロナルド・S・バート氏が提唱した考え方で、ネットワーク上で互いにつながっていない集団(クラスター)の間にある「隙間」を指す経営・社会学理論です。この隙間を繋ぐ結節点に位置する人(企業)は、多様な情報にいち早くアクセスでき、情報のコントロール権を握れるため、競争優位性を獲得できるとされています。

この考え方を深化させ、印刷業という枠から「ソリューション提案企業」へ進化していきたいと考えています。

今後の展開について

初めての取り組みでしたが思った以上の反響をいただきましたので、今後も継続して「プリント」を販売していきたいと思っています。ただ正直なところ利益は考えていません。実際今回1個400円で300個販売することができましたが、仕入れから告知チラシ、ラベルシール、小分け袋、ノボリ、社内制作費、それに食品衛生関連資格費 etc を計算すると収支はトントンでした。

この取り組みで私たちが目指すのはプリンを売上確保の手段とすることではなく、しっかりとした経営計画の下、地元地域にある企業や異業種団体を結び付けて新たなイノベーションを起こすことにあります。例えば、“秋田の酒蔵とスイーツ店を結び付けて「酒粕プリン」を開発して地元の飲食店で販売する”とか、“介護施設と大学によるコラボイベントの実施”などなど。そのプロデュース役を担っていきたいと考えています。

販売当日外観

経緯

私たち東海林印刷では14年ほど前から「地域貢献活動」を行ってきました。きっかけとしては15年前に5台ほどあったオフセット機を全て廃止し、それまで売上の6~7割を占めていた官公庁の入札案件から撤退して民間企業案件へのシフトを断行しました。それにより価格ではなく提案力やブランド力で選ばれる企業へ進化する必要があり、東海林印刷の「ファン」を創出する必要があったためです。当初は主に私が主導して近隣の掃除や介護施設でのボラン



グリーン購入法の改正と GP 認定制度の関係および認定取得に向けた支援策について

2025年4月1日、環境省の定める「国等による環境物品等の調達に関する法律」（グリーン購入法）に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」（以下「基本方針」という。）が見直され、より高い環境性能を示す「基準値1」の要件にグリーンプリンティング認定制度が明記されました。少しずつ影響が出始めていますので、本稿にて改めて情報をまとめました。

1. グリーン購入法の概要と2025年度からの基準変更

グリーン購入法は、公的機関が優先的に環境負荷の少ない製品を調達することを義務付ける法律です。対象は国、独立行政法人、地方公共団体（努力義務）等で、持続可能な社会の構築を目的としています。

2025年4月より「印刷役務」の判断基準が改正され、以下の「2段階の基準」が導入されました。

| 区分 | 概要 | 主な要件 |
|------|-------------|-----------------------------------|
| 基準値1 | 最優先される高度な基準 | GP認定、環境推進工場認定、ISO14001、エコアクション21等 |
| 基準値2 | 最低限満たすべき基準 | 再生紙の使用、リサイクル適性Aランクの維持等 |

国等の機関は、原則として「基準値1」を満たす業者からの調達を優先する方針で、今後の公共入札でこれらの認定の有無が受注機会を左右する大きな要因となります。

2. GP認定の役割と法的整合性

グリーンプリンティング（GP）認定は、資材だけでなく製造工程（廃液・省エネ等）を含めた包括的な環境配慮を審査します。そのため、「基準値1」を完全に満たしていることの簡便かつ強力な証明となります。入札時に膨大な資料を提出する代わりに、認定証の写しを提示することで、客観的な適合証明が可能です。

特定の民間認定が入札の要件となることについては、以

下の理由により独占禁止法等への抵触を回避し、公平性が保たれています。

- **非独占性**：ISO14001 やエコアクション 21、自社による情報公開などの代替手段が認められています。
- **合理性**：専門的な第三者機関による認定基準の準用は、行政実務において合理的と判断されています。
- **参入障壁の緩和**：中小企業でも取得しやすい認定も選択肢に含まれ、参加機会が確保されています。

今後、公的機関の印刷案件において環境配慮への要求水準は高まっていくため、認定取得等の体制整備は不可欠な戦略となることが予想されます。

3. 中小企業向けの支援策

認定取得を目指す中小企業に対し、国や自治体等がさまざまな支援策を用意しています。

- **認定取得費用の助成**：多くの自治体エコアクション21やISO14001の取得に対し、5万～20万円程度の助成を実施しています。また、東京都等では計画策定支援として最大80万円程度の助成が出る場合があります。
- **省エネ設備導入補助**：設備更新を伴う場合は、省エネ補助金（中小企業は最大2/3）やものづくり補助金（グリーン枠）が活用可能です。
- **代替手段と診断**：ISOの簡易版である「エコアクション21」の選択や、無料の「省エネ診断」による専門家のアドバイスを受けることが推奨されています。
- **相談窓口**：日本印刷産業連合会
グリーンプリンティング認定事務局
<https://www.jpfi.or.jp/greenprinting/>
環境マネジメントシステムに関する助成金については、各自自治体の環境担当部署や産業振興担当部署が窓口となり、ウェブサイト等で情報の提供が行われています。

事務局日誌と今後の予定

最新情報はHPでご確認ください

4月の事務局日誌

- 1日 広報委員会（Web会議）
- 2日 JPA 入学式→田中専務
Pマーク現地審査（茨城）→笠原
- 8日 ジャグラコンテスト委員会（Web会議）
- 8～9日 ジャグラ作品展一次審査会（本部）
- 13日 Pマーク現地審査（福島）→田中専務
- 14日 Pマーク現地審査（福島）→田中専務
- 16日 関地協事務総会（Web会議）
- 18日 SPACE-21 総会（香川）→岡本会長、田中専務、笠原
SPACE-21 四国結成式・フォーラム→岡本会長、田中専務、笠原
- 21日 会員拡大委員会（本部、Web会議）
業態進化委員会（ウェビナー）
日印産連環境顕彰制度WG→田中専務
- 22日 ジャグラ作品展最終審査会（本部）→岡本会長、田中専務
- 30日 広報委員会（Web会議）

5月のスケジュール

- 1日 正副会長会議（Web会議）
- 8日 定期監査（本部）
理事会（本部）
- 11日 日印産連ステコミ→田中専務
- 14日 Pマーク審査会・個人情報保護委員会（本部）
- 15日 シタラフェア開会式（高崎）→岡本会長
- 16日 中国地協総会→原田副会長
シタラフェア（高崎）→田中専務
- 18日 Pマーク現地審査（大阪）→田中専務
- 19日 Pマーク現地審査（京都）→田中専務
- 20日 JP2026（1日目）→岡本会長、田中専務
- 21日 JP2026（2日目）→岡本会長
Pマーク現地審査（愛知）→田中専務
ジャグラコンテスト委員会（Web会議）
- 22日 JP2026（3日目）→岡本会長、田中専務
Pマーク現地審査（愛知）→笠原
- 23日 四国地協総会（会場：ブランドパレス徳島）
- 25日 新潟県支部総会（新潟）→田中専務
- 27日 東京グラフィックス総会→岡本会長、田中専務
- 28日 Pマーク現地審査（山口）→笠原
- 29日 東北地協総会（山形）→岡本会長
北海道支部総会（札幌）→原田副会長、田中専務
- 30日 関東地協見学会（栃木）→岡本会長、田中専務

6月のスケジュール

- 2日 Pマーク審査員フォローアップ研修
- 6日 九州地協総会（会場：福岡）
- 10日 日印産連総会（会場：ホテルニューオータニ東京）
- 20日 第68回ジャグラ文化典大阪大会

事・務・局・便・り

日中は半そでTシャツでも快適に過ごせる日が多くなってきましたね。お手元に届く5月号としては少し時期外れですが、4月の入学式を終え、息子と娘がそれぞれ高校生、中学生になりました。二人とも緊張や不安がいっぱいの中、がんばって登校しています。「マイペースでやっていこうぜ！」なんて子供たちに話していますが、ふと、私も昨年の4月にジャグラへ入局したことを思い出しました。子供たちの頑張る姿を見て、一年前の自分を見ているようにも感じました。子供から学ぶことが多いと思う今日この頃です。（笠原）

※「事務局便り」は本部事務局員が交替で執筆しています

月刊「グラフィックサービス」894号

■発行日 令和8年5月10日（毎月1回）
■発行人 岡本 泰
■編集人 本村 豪経
■発行所
一般社団法人
日本グラフィックサービス工業会 略称ジャグラ
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16
電話 03-3667-2271 ファクス 03-3661-9006
ウェブ <https://www.jagra.or.jp/>



ジャグラは一般財団法人日本情報経済社会推進協会指定のプライバシーマーク指定審査機関です

■編集部宛メール edit@jagra.or.jp

◎企画：ジャグラ広報委員会

担当理事
神山 明彦 愛知・(株)カミヤマ / 副会長
委員長
本村 豪経 福岡・アイメディア(株) / 理事

委員
東海林正豊 秋田 / (株)東海林印刷
谷山 和也 東京 / 菁文堂(株)
野口 聡 東京 / (株)アクティブ
小澤孝一郎 山梨 / (株)オズプリンティング
安達 睦男 大分 / (有)舞鶴孔版
瀬尾 淳 広島 / (株)広瀬印刷
三宮 健司 高知 / (有)三宮印刷
佐藤 愛子 大分 / (株)クリエイツ
西谷 毅 東京・文京 / 西谷印刷(株)
松谷 勝広 東京・文京 / (株)松谷メールサービス
笹井 靖夫 東京・文京 / 共立速記印刷(株)
田中 良平 専務理事

◎原稿・編集・校正
田中 良平 阿部奈津子 長野未奈美
笠原賢一郎 賀山 良枝
以上、ジャグラ事務局

◎渉外 田中 良平
◎広告 田中 良平
◎Web 阿部奈津子
◎動画 笠原賢一郎

◎組版 (株)クリエイツ (大分県支部)
DTP = Adobe CC ほか
フォント = モリサワ OTF / モリサワ BIZ+ ほか



※本誌の一部にユニバーサルデザインフォントを使用しています

◎製版 / 印刷 (有)西村謄写堂 (高知県支部)
RIP = FUJIFILM WORKFLOW xmf
CTP = Luxel T-6300 (自現：富士フィルム XP-1310R)
刷版 = FUJIFILM SURERIA XP-F
印刷機 = RYOBI 924D
インキ = 東洋インキ
用紙 = 三菱ニューVマットA判 57.5kg

Copyright 2026 JaGra
禁断引用
※本誌記載の製品名は一般に各メーカーの登録商標です
原則、TMや®マークは省略しています
※乱丁 / 落丁本はお取り替えいたしません

RMGT-CSPI

ともに創る印刷の未来



RMGT-CSPIが SDGs達成をアシスト



印刷会社のSDGs達成のためのソリューションを提案、具現化するRMGT-CSPI。
各分野の企業が連携し、お客さまに寄り添いながら課題を解決・サポートします。

